

CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	さいたま市東楽園再整備建設工事	階数	地上1F
建設地	さいたま市見沼区大字藤子字中田984番 他39番	構造	RC造 一部S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	570 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,708 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2022年7月28日
敷地面積	26,342 m ²	作成者	株式会社高岡建築設計事務所
建築面積	4,676 m ²	確認日	2022年7月28日
延床面積	4,445 m ²	確認者	株式会社高岡建築設計事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)
② 建築物の取組み	92
③ 上記+②以外のオンサイト手法	46
④ 上記+	0

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

音環境	3.0
温熱環境	2.9
光・視環境	3.4
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

機能性	3.6
耐用性	3.7
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	2.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.4
汚染物質回避	3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。		その他
Q1 室内環境 Low-Eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理的・快適性に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー LED照明採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEEさいたま2016年版
さいたま市東楽園再整備建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境			0.40		-				3.2
1 音環境		3.0	0.15	-	-				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		3.2	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	事務室でDr値=40	3.0	0.76	-	-				
2 界壁遮音性能		4.0	0.24	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.9	0.35	-	-				2.9
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-				
1 室温	屋根側・外壁側に断熱材、Low-Eガラスを採用	3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		4.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		2.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-				3.4
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	-				
1 昼光率	2.0% ≤ [昼光率] < 2.5%	4.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備	トップライトを採用	4.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.18	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度	事務室で650lx	4.0	0.17	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.35	-	-				
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-				3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		2.3	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				3.6
1 機能性		3.6	0.40	-	-				3.6
1.1 機能性・使いやすさ		2.7	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.20	-	-				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.20	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.59	-	-				
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.9m以上	5.0	0.20	-	-				
2 リフレッシュスペース	休憩所＋自動販売機の設置	5.0	0.20	-	-				
3 内装計画	建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している	5.0	0.59	-	-				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	建物の維持管理に適切な設備を設置している	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30	-	-				3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震安全の分類: II類(I=1.25)	4.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル貼40年	5.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:カーペット20年、壁:ビニルクロス貼20年、天井:ボード30年	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房、高湿系ダクトはステンレスダクト	4.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水給湯雑排水の主要用途2種についてC以上	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	グリーン購入法対応の衛生器具、排水系統区分の細分化、中水の利用	4.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	メタル・PHS網と通信手段を多様化、通信精密機器を地上階に設置	4.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.3	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.37	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.63	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	PF配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	小広場、催事スペースによる地域貢献、防犯カメラの設置など	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.79	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.95	2.2	0.50	-	2.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-
4.1	モニタリング	用途別エネルギーの内訳を把握	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材:屋根	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.20	-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満、GWP=50未満の断熱材を採用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.1	0.33	-	3.1
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐輪場、駐車場を配置(必要台数分)、荷捌き用車両スペース考慮、バス停の設置、複数の出入口を設置して周辺道路の渋滞緩和に配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たす、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

